

花と緑の銀行だより

182号 2012.1



ツルウメモドキ／富山市

目次	・花と緑の提言	2	・技術講座	6
	・市町村の事業紹介	3	・この人あり	7
	・活動事例	4	・お知らせ	7
	・緑づくりコーナー	5		



朝日町の花と緑のまちづくり

花と緑の銀行

朝日支店長(朝日町長) **脇 四 計 夫**

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

日頃より、花と緑の緑化推進に多大なるご支援とご尽力をいただいておりますことに、深く敬意と感謝を申し上げます。

さて、朝日町は富山県の東端に位置し、東は新潟県、西は入善町、南は黒部市及び長野県と接しています。また、町の東・南部には町名の由来ともなった標高2,418mの朝日岳、2,932mの白馬岳を主峰とする北アルプス連峰がそびえ、北には遠く能登半島を望める日本海に面しており、豊かな自然環境に恵まれた町です。

朝日町の花の見所のひとつとして舟川桜並木があります。4月の半ばにもなると、舟川の両岸約800メートルに280本の桜が咲き誇ります。この桜並木は、地元の舟川新桜並木保存会の方々によって昭和30年代の前半に植えられた桜が成木となり、今では県内でも名の知られる桜の名所となりました。近年では、「あさひ桜まつり」やかがり火でのライトアップが開催され、訪れる人々を魅了しています。また、毎年同地区の方々が桜の開花時期に合わせて、チューリップや菜の花を栽培されており、早春の山々を背景に色鮮やかな春の美しい景観づくりの一環を担っていただいております。

朝日町では、例年、春に緑化木や花苗、秋にチューリップの球根等を地区花壇、小中学校、公民館、公共施設等に配布しております。地域の緑化推進のリーダーである頭取、グリーンキーパーの方々が主体となり、町民の皆様と一緒に花壇やプランターへの植栽や、維持管理をしていただいております。

朝日支店として今後とも、地域の緑化推進への情熱をもち、頭取、グリーンキーパーの方々をはじめ、地域の皆様と安らぎやうるおいをもたらす緑豊かな生活環境づくりを進めていきたいと思いますので、地域の緑化活動に一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに財団法人花と緑の銀行の益々の発展と皆様方のご健康とご活躍を祈念いたしまして、新年のあいさついたします。



舟川桜並木とチューリップと残雪の北アルプス



夜桜とかがり火

舟橋村における緑化推進について

舟橋村生活環境課

舟橋村は、富山県のほぼ中央に位置し、富山市、立山町、上市町に隣接しています。東西・南北それぞれ約2kmと非常にコンパクトな村域であり、面積は3.47km²と日本一面積の小さい自治体として知られています。一級河川常願寺川の右岸に位置し、村内には二級河川の細川や京坪川、八幡川が流れるなど、水に恵まれ、地形は全域が平野や平地となっています。この豊かな自然と地理的環境を活かして整備された田園と、雄大な立山連峰を望む景観は四季おりおりの趣ある風情を醸し出しています。また、富山市中心部へは電車で13分、車で20分、国道8号線及び北陸自動車道立山ICへそれぞれ5分でアクセスできる地理的条件が本村の強みとなっています。昭和46年に富山・高岡広域都市計画区域の指定を受け、昭和63年には富山・高岡広域都市計画区域から除外され、新たに立山・舟橋都市計画区域に指定されました。平成に入り、人口増施策を実施してきた結果、人口が倍増しています。

こういった状況の下、花と緑の銀行舟橋支店舟橋地方銀行が主体となり、数々の緑化事業を推進しています。代表的な事業として、舟橋駅周辺の緑化推進事業があります。舟橋駅は、富山地方鉄道舟橋駅と舟橋村立図書館が一体となった文化複合施設として、全国的にも注目されています。また、駅舎南にはパークアンドライド方式による駐車場が整備されており、毎朝、村内外から多くの方に利用されています。このように、村の表玄関となっている舟橋駅周辺を、花と緑で美しく整備し多くの方に快適に利用していただくため、プランターを設置しサルビア、マリーゴールド等の花を育成する事業をおこなっています。例年5月、11月に頭取及び7名のグリーンキーパーが主体となり、花苗や球根等の植栽を行っています。その後の水やり、施肥、花の植替え等の維持管理についても当番制で1年を通して行い、駅周辺の緑化事業をすすめています。この活動は、駅や図書館の利用を促進するだけでなく、舟橋村のイメージアップにもつながる活動であり、今後も今までの以上の活動を展開していきたいと考えています。

また、舟橋村を全県的にPRすべく、コンテナガーデンコンテストの出展も継続しています。昨年は、舟橋村民の憩いの場となっている京坪川河川公園（通称「オレンジパーク舟橋」）をイメージしたコンテナガーデンを作成しました。



昨年のコンテナガーデンコンテスト

地方銀行が1つのみの舟橋村ですが、今後も、水と緑に恵まれた舟橋村のPRに、積極的に出展していきたいと考えています。

また、花と緑の少年団は、定期的に週1回、駅前から役場、小中学校を通る、言わば舟橋村のメイン通りとなっている県道立山舟橋線沿いに整備された花壇の水やり、施肥等の作業を中心に活動を展開しています。主に小学校4年生児童が中心となって毎回約40名の児童が活動しています。花と緑の少年団は、今後の舟橋村の将来を担う子供達により構成されていますので、花と緑について正しい知識や理解を持った子供達を育てていく面からも、少年団の活動助成、育成は私たちの重要な職務であると考えています。

先にも述べたとおり、舟橋村は近年、人口・世帯数ともに増加し、それに伴い住民ニーズも多様化しています。今後も、村と花と緑の銀行舟橋地方銀行が、より良い緑化事業の推進について今まで以上に協議し、運営していきたいと考えています。そして、日本一の花と緑の県づくりの一翼を担えるよう、当支店及び村関係者が一丸となって、緑化事業をすすめていけるよう、努力して参ります。

シンボル花壇「フラワーランド」

黒部市立若栗小学校
校長 目澤 晴彦

本校の中庭にある大きな円形の花壇は、「フラワーランド」と呼ばれ、伝統あるシンボルツリーの寛栗の松(旧校舎から植えてある大きな松の木)と共に、子どもたちに親しまれている。

この花壇は、各階の廊下から眺めることができ、正面玄関を入り職員室前廊下に向かって配置されている。否が応でも目に飛び込んでくる。花壇は、一日の中でも、いろんな表情を見せてくれる。朝、職員室へ行くとき見える姿、太陽がまぶしく輝くお昼の姿、夕日が沈む頃の淡い姿、また、花によってより美しく見える時間帯が異なっている。こんなことを感じるのも、生活空間の中に花壇が造られており、色鮮やかな花々が目に飛び込み、日常的に子どもたちが世話のできる環境にあるからだろう。

花壇の周りは、自然の野草園になっている。雪解けと共に顔を出すのがカタクリの花である。続いてショウジョウバカマ、ゼンマイ、シャガ、イチリンソウ、ヒトリシズカ、ナルコユリなどの花々が次々と咲き始める。花が終わった秋には、スズムシがすんだ鳴き声を聞かせてくれる。それだけではなく、コオロギやカタツムリ、ダンゴムシなど子どもたちの生活科の学習環境にもなっている。

フラワーランドの入り口は、出入りしやすいグラウンド側にあり、家族や地域の方々とのかかわりが深まればと考えられている。入り口のアーチには、蔓植物が植えられ、中に入ると大きく4つの区画に分けた花壇になっている。これら4つの



花壇をペア学年(異学年集団)で協力しながら世話をしている。花ピカ環境委員会が中心となって、計画的に花



の水やり、花柄摘み、草取りなどを行っているが、本校での取り組みである愛校活動(朝、自分の決めた仕事を進んでする活動)で花壇の世話をする子どもが多く見られる。



花壇の植え込みのデザインは、子どもたちから募集し、選ばれたデザインによるものである。今年のフラワーランドの総合テーマは、「緑と水のかがやく里」である。グラウンド側から

蔓植物の植え込みのあるアーチをくぐると、正面には立山連峰をイメージした山「緑いっぱい黒部の山々」、左側にはその山から流れる黒部川「光り輝く黒部川」、右側には太陽と大きな虹「太陽と虹」が見える。中央花壇は、明るく元気な若栗小学校の子どもたちをイメージして花が植え込んである。



今年度、黒部市学校花壇コンクールで「最優秀賞」、また、「県花のまちづくりコンクール学校花壇部門」で「優秀賞」を受賞した。これも環境衛生委員会が中心になって行われた年3回の花壇の土づくり、除草などのご協力のお陰と感謝している。また、最優秀賞の知らせを聞いた子どもたちの大きな歓声は、普段から一生懸命に世話をしてきたからだとして強く感じた。



庭木としてのフヨウとその園芸品種

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

本県は多雪地帯であり、冬の積雪から樹木を守るために、庭木等の樹木の雪囲いや雪吊りを行うことが常識となっています。でも、労力は大変であり、経費もかさむのが実態です。

ところが、フヨウは、富山では冬の前に地際から幹を切断して越冬させると、翌年の春には新たな幹が再生し、きれいな花を咲かせます（富山県中央植物園ではこのような方法でフヨウの冬期管理をしています）。冬の雪対策としては地際付近で幹を切るだけでよいのです。フヨウを庭木として植えてみませんか。

1. フヨウ

アオイ科フヨウ属の落葉低木で、樹の高さは2m程度です（写真-1）。8～10月頃の早朝に10～14cmのピンク色の花を咲かせます（写真-2）。しかし、夕方にはしぼんでしまいます。でも次から次へと花が咲くので、長い期間楽しむことができます。庭にフヨウを植える際には、湿り気はあ



写真-1 フヨウ



写真-2 フヨウの花

るものの、水が地表に長く溜まらない水はけのよい場所を選んで下さい。

2. フヨウの園芸品種

フヨウの仲間には、フヨウより少し遅れて咲き始める一重と八重の園芸品種があります。前者はヒトエスイフヨウ（写真-3）、後者はスイフヨウ（写真-4）といいます。朝に白い花を咲かせますが、午後になるとだんだんピンクにかわり、夕方から夜にかけてさらに赤くなり、翌朝にはしぼんでしまいます。名前は、このようなさまを酒飲みの顔がだんだん赤くなっていくことにたとえたもので、「酔う芙蓉」ということになったようです。よく似たものにアメリカフヨウがあります。アメリカ原産で7～9月頃に直径20cmにもなる大きな花が咲きますが、樹木ではなく草花で、宿根草です。

なお、フヨウの写真はすべて富山県中央植物園内で撮影したものです。



写真-3 ヒトエスイフヨウの花



写真-4 スイフヨウの花



ステップアップ研修を受講して

花と緑の銀行砺波支店

中野地方銀行頭取 清原孝明

2年前に花には全く縁がなかった私が前任者の推薦で現任務を引継ぐこととなりました。当地区は農村公園内に小さなレンガ積みの花壇とは言い難いものが3ヶ所とプランターの列に花を植えて管理をしている状況です。花と緑の推進協議会の皆さんで水の管理をし、12名のグリーンキーパーが毎週土曜日朝6時から1時間、花がら摘みや草むしり等を10月末まで行っています。私は何もわからないまま、前任者の引継事項のとおり活動をしていましたが、ある日「ステップアップ研修というものがある」ということを聞き、市の担当者にお願ひし受講することにいたしました。

研修初日は、県内各地から選ばれたベテランのグリーンキーパー、頭取さんばかりで、自己紹介を聞いた時は、後づさりしそうなことを覚えています。しかし直ぐにグループ仲間と意気投合し、次回からの受講が楽しみに変わったものでした。

講義は渡邊美保子先生指導の下「花壇における土づくり」の知識から始まり「デザインの基礎」そして植物生態と病害虫、草花管理の知識と幅広く勉強させていただきました。

私にとっては新しい事ばかりで、メモを取るのに懸命で20回の時間が非常に早く感じました。植物園内の実習花壇では「ガンバロウ花だん」と名付けた土田愛子さんのデザイン花壇で花の世話をし、1人1品種の観察記録も行いました。今年は、7月は雨が多く8月からは猛暑が続きましたが、私達の花壇は病気や害虫には全く縁がなかったと思っています。又、どの班の花壇も撤去作業まできれいに咲いていたと感心いたしました。

この期間の研修は私にとっては本当に新鮮で、1年生の気持で勉強させていただきました。この経験を地区へ持ち帰り、花づくり活動に生かしたいと強く感じました。

次年度には花壇造成が出来ることになりましたので早速土づくりから始め、今迄にない花壇で地区の皆さんに楽しんでいただこうと思っています。





私の頭取としての活動

花と緑の銀行入善支店

舟見地区頭取 **愛場 正利**

私は庭師ですが、頭取になったのは平成20年4月に地区の区長会長から「花と緑の銀行の頭取になって頂きたい」と声を掛けられたのがきっかけです。その時は少々考えさせてくださいと拒みました。数日後、私なりの考えも決まり承諾の返事をしたのですが、当時を振り返ると、大変な役割を引き受けたものだと思います。

頭取になり私のやりたい事に着手しました。第一に私の特技である“庭造り”を絡めた花壇作りを構想し、「実のある庭園花壇を作りたい」と考えました。次に、植物には薬草になるものも多くあり、「薬草の勉強会もしたい」、さらに、庭園になじみのある「お茶の勉強会もしたい」と構想が次々として出て参りましたが、実行に移すことが出来なかったのです。何故出来ないのかと考えた時、地域のグリーンキーパーが数人しかいなかったのです。これでは無理なことが分かり、まずはグリーンキーパーを募集し、十数名の方々にお願いをすることができました。しかし、私の考える庭造りを絡めた花壇作りには、物、人、財が足りず、区長会長を通して自治振興会に相談し、援助を受けたのです。

一年を通して公園内の樹木の剪定、公園内の花壇作り、植栽、また薬草の勉強会を4回（春・夏・秋・冬）、茶会（年2回）、ほかに公園内、花壇内の草取りなどを実施してきました。その活動が認められ、平成23年5月の皇太子様を迎える「全国みどりの愛護のつどい」で県知事から感謝状を頂き、地区の皆様、グリーンキーパーの皆様、そして私にとって忘れることのできないものになりました。

これからは、勿論今迄の活動を継続するとともに、年間を通して変化のある物を取り入れていきたいと考えています。現在計画しているのは、町の花であるチューリップの球根を植え、来年の3月には東日本大震災で被災された皆様へ芽の出た数百個のプランターを届けたいと考えております。

終わりに、各地方銀行の頭取、グリーンキーパーの皆様が健康で更にご活躍することをお祈り申し上げます。



〈お知らせ〉

第39回花と緑の大会が開催されました

11月7日(月)、県民会館で標記の大会が開催され、地域の花と緑に貢献された皆さんや、ポスター・標語、花壇のコンクールに入賞した皆さんが知事・理事長から表彰されました。おめでとうございます。あわせて、丸栄産業 丸山彰壽社長のガーデンデザインに付いての講演がありました。



頭取・グリーンキーパーへのお誘いを

これから年度末にかけて、頭取・グリーンキーパーの新規就任や更新などの事務手続きを行います。花好きな方や地域で花と緑に関係する地道な活動を継続している方などに、頭取・グリーンキーパーの活動を紹介しながら、一緒にやろうよと声をかけてみてください。

表紙写真：ツルウメモドキ（ニシキギ科、富山市）

裏表紙写真：ススキ（オバナ イネ科、富山市）



ススキ／富山市



花と緑の銀行だより 182号

発行日 平成24年1月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranijyounomori/>

再生紙を使用しています。